

私たちは、あのときを忘れない。

# 未来への約束。



未曾有の大震災を経験して、私たちは懸命な救命活動を行う中で、「できたこと」「できなかったこと」そして「もっとできること」を学びました。

「一刻も早く被災地に医療を届けたい。」その思いを胸に、3・11の発災直後から、全国の医師が参加して

JMAT（日本医師会災害医療チーム）を結成し被災地に向かいました。緊急に必要な医薬品も、交通網が遮断される中多くの人の力を借りて届けることができました。

その後も長期にわたり、私たちは被災地の医療を支えるために活動を続け、心のケアも含めた地域のコミュニティづくりを全力で応援してきました。

「人の生命は人の力で救う。」その信念は決して揺らぐことはありません。

いま、私たちは、今後想定される首都直下地震や南海トラフ巨大地震に備え、都道府県医師会の協力を得て

JMATの強化はもちろんのこと、JAXA（宇宙航空研究開発機構）とともに通信衛星「ぎずな」を利用した、遙か宇宙からも見守る災害医療情報ネットワークの構築に向けて実証実験をはじめています。

すべての人の生命を守ること、それは医師としてあたりまえのこと。私たちは、あのときの思いを決して忘れず、医師だからこそできる力を信じて、未来の生命を守る力になりたいと、心から願っています。



## いのち 生命をまもる。絆の力で。

全国の医師が一丸となって、日本医師会災害医療チーム<JMAT>の活動はこれからも続きます。

JMATとは、医師、薬剤師、看護職員、事務職員などにより結成された災害医療チームです。東日本大震災時には、のべ2,000を超えるチームが、被災地の避難所や救護所で、巡回診療をはじめ、慢性疾患の患者さんへの投薬、予防接種、精神的なケアを含めた地域医療の復旧に全力をあげて携わりました。